

眼病の仏様

匠 探訪

166

眼病を治す御利益があり信仰を集める神社や寺院は、現代でも数多くあります。他方、かつては信者でにぎわったと伝わるものの、その存在を忘れ去られた社寺も少なくありません。

1980年代に『東総の四十九薬師』（大木衛・高森良昌著）、『房総の万病平癒御利益社巡り』

（川村純一著）が相次いで出版され、市内の調査に關係してから30数年ぶりに野手・内裏塚の薬師堂を訪ねました。

江戸時代後期に建てられたと見られる薬師堂があるのみで、かつて銚子市常世田町・常灯寺の薬師如来像（国の重要文化財）とともに「下総三薬師」、あるいは「海岸の

などは知られていないものの、1921（大正10）年刊行の『匠瑤郡誌』に「縁日は陰曆六月十一日なり」と記載され、當時はかなりの信仰があったと推察できます。そして「下総四十九薬師」や「東総四十九薬師」霊場の一つにも数えられています。

眼病の仏様では大寺・龍尾寺のように、弘法大師空海が霊水を湧き出させたという伝説もあります。

下総四十九薬師や東総四十九薬師の霊場巡りがいつごろ構成されたか全体像など不明ですが、東総に限ると番外を含め四十九薬師の約3割が市内にまつられ、広く信仰されていたことが知られます。

【訂正とおわび】

本紙1月号掲載の写真説明で、「権現造り」とあるのは「神明造り」の誤りでした。訂正し、おわびします。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



野手内裏塚の薬師堂

三薬師」として広く信仰を集めたと伝わる面影は見当たりません。堂の前の窪地は池の跡とされ、絶えずきれいな清水が湧き出て目を洗うと眼病が治ると信じられていたと言います。

堂の由来